

横浜・石井造園

地域交流の活性化の場として「盆栽カフェ」を開こうと、横浜市内の造園業者が奮闘している。若者を中心に人気を集めるミニ盆栽と喫茶という異色の組み合わせで、老若男女が集う癒やしの空間を提供するつもりだ。

桜の花が咲き散るまで、ミニジが紅葉し落葉するまで、好きな場所で観賞でき、季節ごとの変化が楽しめる盆栽。最近では特に、樹高10センチほどの手のひらサイズで、千〜二千円といった手頃な価格のミニ盆栽が人気で、家庭だけでなく職場に置く人もいるという。

盆栽を核にした交流拠点を、と考えたのが、石井造園(同市栄区)社長の石井直樹さん(48)。盆栽は少なくとも1カ月に1度は剪定などの手入れが必要で、購入した後、相談も兼ねて再訪する人が多い。花や植物が好きなの人同士、年代を問わず交流できるようなコミュニティカフェを目指している。

現在は、黄金町と横浜中華街にそれぞれ月1回、試験的に出店。ミニ盆栽や、樹高20センチほどの小品盆栽を中心に販売している。1日約60人から70人が来店

「盆栽カフェ」交流拠点へ



「盆栽カフェ」を運営する石井さん(左)と平田さん
＝横浜市中区

し、購入者は20代から30代半ばの若者層が約6割を占めるとい

「思った以上に若い人が多い」と手応えをつかんだ石井さん。

8月1日からは、ヨコハマトリエンナーレの一環として開催されている「仮想のコミュニティ・アジア」黄金町バザール2014(同市中区、11月3日)まで、内に

で、内に出店し、ニーズ調査を進めている。飲食部門は、同市南区で建築会社を運営する平田全利さん(60)が担当する。

世代超えたつながり期待

(田中 亜弥子)